

編集後記

周知のように、ここ数年、医療関連職種の身分制度の確立が叫ばれており、また、その多くがリハビリテーション医療に深い関わりを持つものである。そこで今回、“特集”として“新しい関連職種の制度化”をとりあげた。執筆者はこれらの制度の実現に最初から携わっておられる方々である。

まず昭和63年度より始まった義肢装具士と社会福祉士について、それぞれ川村氏と京極氏にお書きいただいた。いずれも経過措置的な国家試験制度ではあるが、制度の歴史的背景から、将来の教育システムのあり方などリハビリテーション医療者として知らなければならない事柄を網羅している。臨床工学士に関して辻岡氏ほかが解説して下さったが、リハビリテーション医療では心肺機能障害者、また末期医療などで活躍する職種であり、今回、身分法の成立に至ったものである。乾氏は“臨床心理士”が同じく昭和63年に協会認定という形で誕生したことを報告されているが、国家試験へ向かっての大きな前進ととらえるべきであろう。

言語療法士に関しては芳賀氏が昭和40年以来、今日に至るまでの身分制度確立へ向けての経過を述べられているが、“医学畑における医療言語聴覚士”の資格制度確立

はまさに焦眉の急といえる。当然のことながら、医療職として活躍する医療言語聴覚士と特殊教育畑で働く教育者とは全く異なる立場であることを関係機関は明確にすべきであろう。

医療ソーシャルワーカーに関しては岩崎氏が解説されるように、リハビリテーション医療では中心的な役割を果たしているにもかかわらず、身分制度の確立までの道は未だ遠いようである。しかし、医療と社会の接点としてリハビリテーション医療では必要不可欠な職種であり、早急な身分制度の確立が望まれる。

研究と報告、症例報告などの投稿原稿も、数も増え、また内容もアカデミックなものが多くなり、編集委員は嬉しい悲鳴をあげているところである。これもリハビリテーション医学が我が国に着実に定着していること、さらに本年度リハビリテーション医学会が法人化され、学会員も5,000人を超えるまでになったことを反映しているといえよう。

このような時代の趨勢を鑑みて、以前から編集委員会でも再三話し合われたことではあるが、“letter to editors”,あるいは“読者の欄”を設けて、本誌が今までより以上に読者諸兄姉のリハビリテーション医学の発展のための交流の場となるように編集方法を検討する時期にきていると考えている。乞御期待！（千野直一）

総合リハビリテーション（第17巻 第10号）

1989年10月10日発行（毎月1回10日発行）

1部定価 1,803円（本体1,750円）
（配送料60円）

（年ぎめ予約購読料 20,518円）
（本体19,920円（送料弊社負担））

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

（担当：佐々木・細田）

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株)：電話 (03) 637-0005

広告申込所 (株)東広社：電話 (03) 409-8803

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一郎
五 味 重 春
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
岩 倉 博 光
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
加 倉 井 周一
小 島 蓉 子
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
土 肥 豊
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 歆
長 谷 川 恒 雄
初 山 泰 弘
福 井 圀 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
米 本 恭 三
渡 辺 英 夫
（五十音順）

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1989, Printed in Japan.
本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。